第732号　（第三種郵便物認可）　みいけ　昭和38年6月1日（土）（四）

中川さんら四名が県大会に

地評囲碁大会

第一回総評杯争奪囲碁大会は六月三〇日東京で開かれるが、その地方予選が、大牟田地評で五月二十六日、荒地評では五月一九日それぞれ行われた。

三池労組からは、熊本県大会に三名（四山支部）、福岡県大会に一名（三川支部）が出場と決った大牟田地評予選は、二十六日、東圧厚生会館で地評傘下の各組合員五九名の参加の下に開かれた。

優勝者は次の通り

Aクラス　牧原　槙（三煉）
Bクラス　大津新一（西鉄）
Cクラス　中川米光（三池労組三川支部）

また、荒地評大会は、去る五月十九日午前十時から、荒尾市労働会館で、荒地評傘下組合員二六名を集めて行われたが、四山支部の高下、河原畑、雪野の三氏が県大会出場の資格を得た。

成績は次の通り

Aクラス二位　高木啓雄
Bクラス一位　河原畑英治
Cクラス一位　雪野直則

なお、県大会は、福岡県が六月中旬、熊本県が六月一六日にそれぞれ開かれる。

全国青年労働者研究集会に参加して

宮浦支部　瀬本巌

去る五月十八日、十九日、二十日の三日間、大阪市国民会館において全国の働く青年が一堂に参加しました。

三池としては初めての参加とはいえ、北は北海道、北陸、南は九州、沖縄から山くさい町、海くさい村から、あらゆる職場に働く青年労働者がカンパをしあい、工面をつけつつ、この大会に参加している事を知った時、スバラシイ！という感を深くしました。

またここで話し合われた事が現場で職場で活動しはじめる事を想像する時、私は明日の職場が、明日の組合運動が必ずたゆみなく前進することを期待しつつ帰山しました。

とくに二日目、第1分科会は合理化問題について、第2分科会は平和と憲法問題、第3会場は組織問題について、それぞれ討議しました。

第5回大会の意義は相互の思想信条の違いを乗り越え共に斗う事自分の主張が容れられなかったからといつて斗いをサボル事は間違いである。

決まった事は必らず守り斗おうという意見が提起され、全員拍手をもって採決された事ではなかつたろうかと思います。

私達は今日、会社の不当な第三次合理化の攻撃を受けています。しかし、合理化の攻撃は化学にも鉄鋼金属にも私鉄にも出て来ています。

大牟田地評大会は、六月一九日、荒尾市労働会館で、荒地評傘下組合員二六名を集めて行われた。

生活つづり方

宮浦　高椋龍生

こどもの日

あるところで、中学生同士の話

「お前げんとうちやんな、まあだ三本線で、頑張つとらすげなねおりげんとうちやんな、（人さし指と中指をつき出して）ニー公じやけん、つまらん」。

緑が丘社宅の壁一重かにもれてくる声。

父「もちっと、勉強せんか。いつちよん、こん子は粘りのなかつじやけん、なんの、せんかふうで勉強ん上手になろうか」。

中学生になる子供、逃げ出しながら

「なんち言おるか、一番ぐちから脱落しとつて。親ん粘りのなかけん、子も粘りのなかつくさい」

子供たちは、ちやんと見ているそして、きびしく批判しているやがて子供たちの時代がきたとき、三池争議は正しく評価される日がくるように元気で、仂らいてくれる

母の日ぐらいは休んでもらいたかったが仕事のことで休まれないのはしようがないので箱の中のおか子でも食べて下さい）

力より

上から女二人の三人目の末つ子に育ち、今年で中学一年になる男の子から「母の日」の母への、感謝の手紙と日ごろ、自分の小つかいを節約して買つた、ささやかなプレゼントである。

私は何気なく、子どもの高机の上にある、ボール箱のふたを開いて見て、始めて、そのことを知つたが、わがことのようにうれしく目がしらが、ジンとたる。

今まで、なよなよしていた妻であったが、このごろでは、見違えるように元気で、仂らいてくれる

みんなにささえられ夫にささえられて

三川　浜田小夜子

夕暮の坂道を子供の手を取り風呂おけをかかえ、何んとなく、あきらめと組織人としての無責任さと、あまり大ゲサでなくとも悲しい事をしてるような気持ちでのぼっていると、ほの暗い坂の上から誰か来てるな、と思った。

坂の上より急に声がした。「帰つて来よっとか？」。ああお父さん（子供の手前何時からともなく、貴男をお父さんと呼ぶようになった）か。

「ウーンまだ洗濯物も入れていないし、寝床もしていないから帰えらんならと思って——」「洗濯物は入れた、休がキックなかならいってこんね。キツカなら、帰ってこんなたい」といいながら、友子の手を取り風呂おけを取ってくれる。

とトタンに今までのつゆ空のような気分が消え、晴れた五月の空のように主婦会意識がもどって来た時も「頑張らなんたい。やるなら徹底的にやらんなんたい」と二年半という長い月日がたつにもかかわらず、ローダマンの夫が、一回のローダも使うことなく、転場での差別と重労仂に耐え、しかも給料は二万円あるかなしという「家の主人としてあまり口にしないが責任を感じているような気がするので、私はすこしでも彼の気持ちをかるくするために、今年は内転でもして夫の負担をやわらげ思いきり転場の中で頑張ってもらおうとひそかに内転を当ってもらっていたが、分会でのはげましと近所のあたたかい助合い、夫のささえでもう一期頑張ることとなった。

今年は何時もの年とは異なり、もう目の前に第三次合理化の嵐が吹き荒れ、ともすれば足をすくわれがちな合理化なのに何ひとつ心配することなく、いかなる合理化の嵐がこようとも、あのお母さんたち、主婦の方々のスクラムにささえられ、お互いに声をかけ合いながら頑張ることができると思っている。と同時に、子供たちの理解にもささえられながら。

先月の選挙の終盤戦の追い込みの時の幼稚園の遠足指折り数えて待った遠足、お弁当もできた、キャラメルも、チョコレートもリックに入ったけれども手を引く私は選挙の車。

子供はチョットさびしい顔をしたが、「それでは今度どこかに一緒に行こう」の約束が結ばれた。それが明日の福岡行きとなって実行されようとしている。

夫は転場から裁判傍聴に、私は主婦会から、ほんの行き帰り食事するくらいが家族のいこいかも知れないが、出かけることの少ない私たち家族にとって、何よりの楽しみになりそうだ。

これも急に二、三日前に決まった二人とも福岡裁判傍聴に行くことがわかり、それでは、子供もつれて行こうということになった。

子供たちも、私たちの身体のあく日をしんぼう強く待っている。

このように家族にみまもられながら、近所の人たちに助けられて初めてこの重大な時期の役員という大役を、私もせい一杯頑張ることができると思う。

母の日

かあちやん、毎日、ごくろうさんです。

これからも、病気にならないように、がんばって下さい。

あまり無理をしないようにして下さい。

（かあちやん

文学サークルを結成しよう

——みんなのたたかいを高めるために——

三池の火を拡げるために

人間を品物あつかいにして恥じない合理化攻撃が、どこよりも冷酷につづく三池炭鉱です。

しかし私たちは組織を守るたたかいのなかで、ほんとうの「団結」を体で受けとめ、第二組合員の不安と動ようのなかから、人間の尊げんを守り高め、人間の尊げんを確認し合い「抵抗」の意義を学び、口達者ではないが、素朴で正直な仲間たちが人間として立派で勇敢だという実感を心にふかくきざみこんでいます。

第三次合理化をめぐつて、たしかに二段どきびしい情勢が私たちの上におおいかぶさつています。

しかしその反面、私たちはいよいよ本物の「団結と抵抗」をさらに強く自分たちのものにすることができると信じています。

さて、転場で、労仂者の権利を守り高め、人間の尊げんを確認し合い差別反対斗争にたいする視野を「人間解放」に拡大し、粘り強い反撃に移るためには、もつとお互いの体験や主張を飾りけなく交流する「場」が必要です。

労仂者の文学活動は、このように元気で、仂らいてくれる

人生に、明るく、堂々と誇り高く生き抜くことがいかに尊とく、あるかを、妻は、

りがたいものであるかを、妻は、

身をもって体験し、実証してくれ

ようになった。

またこのごろ学習誓は手もとにありながら読まない方が多い。

すると「本を読まない者は、世の流れにとりのこされる。そんなことではだめだ」としかる。

こんなことをあげればかずかぎりはない。

この私のように夫にはげまされ近所の人たちにささえられているのがすべての主婦会役員さんだろう。

私はこの改選期に入りまた役員をすることになったけれども、私はこんなことを考えていたのです

二年半という長い月日がたつにもかかわらず、ローダマンの夫が、一回のローダも使うことなく、転場での差別と重労仂に耐え、しかも給料は二万円あるかなしという「家の主人としてあまり口にしないが責任を感じているような気がするので、私はすこしでも彼の気持ちをかるくするために、今年は内転でもして夫の負担をやわらげ思いきり転場の中で頑張ってもらおうとひそかに内転を当ってもらっていたが、分会でのはげましと近所のあたたかい助合い、夫のささえでもう一期頑張ることとなった。

今年は何時もの年とは異なり、もう目の前に第三次合理化の嵐が吹き荒れ、ともすれば足をすくわれがちな合理化なのに何ひとつ心配することなく、いかなる合理化の嵐がこようとも、あのお母さんたち、主婦の方々のスクラムにささえられ、お互いに声をかけ合いながら頑張ることができると思っている。と同時に、子供たちの理解にもささえられながら。

先月の選挙の終盤戦の追い込みの時の幼稚園の遠足指折り数えて

俳句—四二編。短歌—一五編　早急な発刊を計画しつつあるの詩　—二〇編。随筆類五二編　です。

これらの作品はすべて体を張つた家族ぐるみの「抵抗文学」として高く評価されています。

なかには大新聞に紹介されたり執筆を依頼された人も相当います。

そこでいま三池斗争の真実と、その前進と、その拡がりを求めてたたかい抜くため、多数の組合員・家族の参加を期待して、広くここに第一次のアピールを行う次第です。

（連絡先—三池労組本部　大津留雪記）

見ざる

聞かざる

言わざる

書かざる

聴かざる

読まざる

「一日でん、出られるときや出て、がま出しとかにや」、今期の出がけに、つぶやくように言つた妻のことばを、口の中で、つぶやきながら——

「おーい、怪我せんごつ、頑張ってくれよ！」と心の中で叫ぶ。

今、私の目の中に、ボール箱のふたいっぱいに絵の具をにじませた、カーネーションの赤が、いたくしみる。

妻よ

私たちは貧しかつたが、きつといつか、子どもたちから、正しかつたと言われよう。

その日まで、頑張ろう！

「怪我せんごつせんなんぞ!!」

▼

母の日の母に大きな目玉焼き

▲